

1. 開催日時 平成 29 年 5 月 28 日 15 時 15 分～17 時 15 分
2. 開催場所 電気ビル本館 8 号室 (福岡県福岡市中央区渡辺通 2-1-82)
3. 有効出席数 正会員総数 1,690 名中 1,005 名 (内 当日出席者 120 名、議長委任者 823 名、書面表決者 62 名)
4. 審議事項、議事の経過の概要及び議決の結果

#### <議長の選出>

定刻、当法人定款の規定により、疋田事務局長が議長の選出について出席者に諮った結果、総会に出席した正会員の中から伊東和幸さんが議長に推薦され選出された。議長は総会の開会を宣言、事務局より正会員総数、有効出席数、書面表決結果の報告を行い、議長は本総会が適法に成立する旨を宣した。続けて、議事録署名人の選出について出席者に諮った結果、野鶴智美さん、繁田絹子さんが選出された。また、本日出席の理事・監事の紹介があり、議案の審議に入った。

#### <第 1 号議案> 平成 28 年度事業報告並びに決算及び監査報告について

##### (1) 議案説明

総会議事資料に基づき、酒井理事より事業報告の説明が、鳥羽理事より決算の説明があった。また、池田監事・長橋監事より、「監査の結果、法令及び定款に違反する重大な事実はなく、財産及び収支の状況はいずれも適正妥当であった」との監査報告があった。

##### (2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

#### <第 2 号議案> 平成 29 年度事業計画並びに予算について

##### (1) 議案説明

総会議事資料に基づき、平井理事より事業計画の説明が、中野理事より予算についての説明があった。

##### (2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

#### <第 3 号議案> 平成 29 年度役員の選任について

##### (1) 議案説明

総会議事資料に基づき、野口理事より、平成 29 年度の理事として荒金雅子、加藤貴美子、亀井直人、酒井麻里、椿恵子 (通称：疋田恵子)、鳥羽秀人、中西百合、中野功、平井雅以上 9 名の再任と小池秀裕、山根弘和以上 2 名の新任が提案された。あわせて、監事に長橋良智の再任、小藤輝正の新任が提案された。

##### (2) 審議結果

質疑応答の後、参加者の挙手により、賛成多数にて承認された。

#### <第 4 号議案> 定款第 12, 15, 23, 28, 30, 34, 37, 38, 39, 45, 47, 55 条の変更について

##### (1) 議案説明

総会議事資料に基づき、疋田理事より、現状の運営体制と特定非営利活動促進法の改正に則した内容にするため、定款第 12, 15, 23, 28, 30, 34, 37, 38, 39, 45, 47, 55 条の変更に関する議案の説明がなされた。

##### (2) 審議結果

質疑応答の後、議長より挙手による意思表示を求めたところ、当日出席者の挙手による賛成が 108 名、反対が 0 名、棄権 12 名であり、議長委任 (823 名) と書面表決 (賛成 56、反対 6 名、棄権 0 名) を加えた結果、賛成が 987 名、反対が 6 名、棄権が 12 名となり、出席者の 4 分の 3 以上の多数にて承認された。

以上をもって本日の議事は終了し、議長は 17 時 15 分閉会を宣した。

2017年5月28日

住所 東京都渋谷区千駄ヶ谷3丁目12番8号  
名称 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

以上、本会議の議事及び結果が正確であることを証するため、議事録を作成し、議長及び議事録署名人はこれに署名捺印する。

2017年5月28日

議 長 伊東 和幸

議事録署名人 野鶴 智美

議事録署名人 繁田 絹子

特定非営利活動法人 日本ファッション協会 平成 29 年度通常総会 議事録  
 - 補足資料 (質疑応答) -

総会議事資料誤植訂正表

誤		正	
P12 経常収入の部		P12 経常収入の部	
科目	予算比	科目	予算比
個人会費 (学生)	100%	個人会費 (学生)	—
法人寄付金	#DIV/0!	法人寄付金	—
民間助成金	#DIV/0!	民間助成金	—
経常支出の部		経常支出の部	
調査・研究事業費 予算内訳 中部支部		調査・研究事業費 予算内訳 中部支部	
科目	金額	科目	金額
会場使用料	#####	会場使用料	240,900
交通宿泊費	#####	交通宿泊費	142,560
謝礼等	#####	謝礼等	172,507
当期収支差額		当期収支差額	
予算内訳	予算比	予算内訳	予算比
当期収支差額	96.4%	当期収支差額	-74%
P24 事業収入の部 (シボジウム 1,109,000 変更)		P24 事業収入の部 (シボジウム 1,109,000 変更)	
収入合計	金額	収入合計	金額
調査・研究事業費	396,000	調査・研究事業費	1,505,000
交流・親睦事業費	4,478,000	交流・親睦事業費	3,369,000
事業支出の部 調査・研究事業支出		事業支出の部 調査・研究事業支出	
科目	金額	科目	金額
会場使用料	4,226,000	会場使用料	3,417,000
事務消耗品費	387,000	事務消耗品費	401,000
交通宿泊費	1,745,000	交通宿泊費	2,360,000
研究開発費	0	研究開発費	180,000
管理費		管理費	
予算内訳	詳細	予算内訳	詳細
通信運搬費	Zoom 使用料 3 契約 5.4 万	通信運搬費	Zoom 使用料 3 契約 4.5 万
支払手数料	30 万	支払手数料	25 万
P28 変更後 (表決権等) 第 37 条 4 前項の規定により表決した理事は、第 38 条 第 1 項第 2 号の適用については、理事会に出 席したものとみなす。 (暫定予算) 第 45 条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない 理由により予算が成立しないときは、会長は、 理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事 業年度の予算に準じ収益費用することができ る。		P28 変更後 (表決権等) 第 37 条 4 前二項の規定により表決した理事は、第 38 条第 1 項第 2 号の適用については、理事会に 出席したものとみなす。 (暫定予算) 第 45 条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない 理由により予算が成立しないときは、会長は、 理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事 業年度の予算に準じ収益費用を講じることが できる。	

<第1号議案> 平成28年度事業報告並びに決算及び監査報告について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) 昨年度、若い人を増やす対策を検討するということと認識していたが、どのような対策を行ったのか。行ったのならば、その結果はどうだったのか？

回答) 昨年度計画において、若い人に対し対策を検討するという話はないため具体的な対策はしていない。その点は各支部にゆだねている。具体的な年齢設定はせず、「超えてつながる」というテーマの実践例のひとつとして若い人が増加したことを紹介したものである。

質問) 非会員の参加について、一年取り組んで具体的にどうなったのか？

回答) 昨年度、各支部でトライアルをした。それを拡大理事会で状況を共有し、それぞれの事情、背景を認識した上で非会員の参加を正式に導入すると決定した。したがって継続して非会員有料参加が可能となり、またお試し参加も継続して行える。ただし、実施判断、具体的方法については各拠点の実情に合わせて実施してもらうようにした。

意見) 今後非会員で参加した人、超えてつながった団体などの傾向などをデータに残してほしい。

<第2号議案> 平成29年度事業計画並びに予算について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) 昨年度東京支部イベントでは予算削減により収支を赤字にしないため、会場費の分だけ参加費増としたが結果、参加者も減った。支部イベントは新規会員を獲得する事業のため、積極的な予算を考慮してもらえないか？

回答) 支部イベントの予算は昨年度同様の考え方に立っており、収支を合わせる努力はしてほしい。但し、拠点特有の事情もあるため、厳しい場合は支部イベントの目的を達成するために担当理事に相談してほしい。

質問 (2015年度の) ワールドカフェ20周年のイベントでは、FAJとして、IAF側にかなり資金と人的資源を投入したと認識している。その効果はどのようになっているのか？

回答) 財務的には本イベントにおいてFAJ側に20万円の利益があった。人的な部分では、関わった人によっては負担感があったと認識している。ただしFAJ会員がワールドカフェの哲学を改めて学ぶことができ、FAJとIAFの連携によって本イベントの成功をもたらすことができたと考えている。今後のIAF及びIAFJとの連携については、参画を希望する人が主体的に充実感を持って関われるようにしていきたい。

質問) テーマ型サロンで、人数が多いサロンは予算を多くできないか？

回答) サロンは法人とは別の任意団体(ファシリテーションの普及に向けた各地の会員の自主的な集まり)であり、FAJからは一定額の補助を予算として拠出している。

意見) マイナス予算が一過性であるとの話だったが、自分たちのミッションにあった他団体の活動について(予算を)もっと活用してほしい。

質問) シンポジウムの振り返りなど、総括を行う主体は誰か？どの時点で話し合い、どの時点で次のステップとなるアクションにつなげるか？具体化してほしい

回答) 主体は理事会となる。シンポジウムガイドラインが毎年検討されている状況もある。これまでの、実践が多い年・研究的なものが多い年など様々な取り組みを一度振り返り、今後どのような形で継続していくのかを理事会として検討する時期にきている。ただ2018年のシンポジウムは、現在のガイドラインの中で今年度検討するものである。もし北海道支部の取り組みの中でガイドラインを超えるようなことがあれば適宜相談していきたい。

質問) 今回はシンポジウムで「F力測定の総括」を実施した。総括とはどのようなことを行うのか？総括とはどういう意味なのか？

回答) F力測定を終わらせるためではなく、次に繋げるための総括として取り組んだと捉えている。

- 意見) シンポジウムの継続性として、北海道支部と九州支部および理事会で新旧実行委員会の連携を取ってほしい。
- 質問) 非会員の参加について、トライアルから運用に至っていると思うが、良かったことについて教えてほしい。インパクトにどう繋げていくのか？
- 回答) いつもと違う参加者が入ってくることが、会員の学びの質が変わると感じている。
- 質問) イノベータに対応する組織の在り方について、挑戦型イノベーターなど、FAJ 内部のイノベーターなどとの関わりについてのどうサポートしようと考えているか？
- 回答) 1700人の大きな団体となった現在、FAJ は様々なジレンマを抱えている。これを会員と一緒にイノベータティブに考えていけるような仕組みを検討していきたい。
- 質問) シンポジウムに非会員参加ができるようになった。今後も調査研究なのか？
- 回答) シンポジウムは非会員参加であっても調査研究のままとする。
- 質問) 全国のイベントで利用されるようになった、パスマーケットのような決済システムであるが、誰かが一元的に管理し、把握できるようにしなければいけないのではないのか？
- 回答) 事務局としては事実認識をしている。
- 意見) 決済システムの担当理事を置いたほうがいい。
- 質問) 会員 100 名増加について、具体策を聞きたい。
- 回答) 算出の根拠は設けられてない。FAJ を身近に感じてもらえるような広報を強化していきたい。予算の考え方について、NPO 法としては予算主義ではない。各拠点や委員会の内訳は、立ち行かない経営にならないようなガイドラインとして捉えてほしい。
- 意見) 現状余剰金が多すぎる。使い方を考えたほうがよい。FAJ に関連することに対してどこか別の団体に支援するなど、投資をして回収するなど考えてほしい。
- 質問) P24 支出の部 1 事業費 調査・研究事業費支出 研究開発費 の H29 年度予算の 0 が 180,000 ではないのか？
- 回答) 数値誤り。金額訂正 (誤植訂正表に記載した)

<第3号議案> 平成28年度役員を選任について

議長より、挙手による質問を受け付けたが、とくに質問や意見はなかった。

<第4号議案> 定款第16条の変更について

議長より、挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答があった。

質問) 第28条の改正の背景を教えてください。総会参加者としての裁量範囲が大きくなると感じている。

回答) 東京都の指摘を受けて改正した。議案送付後に役員候補者の死亡等、議案差し替えが必要となる場合を想定している。この運用については慎重に考えていきたい。